

【特集】竜門ダム 運用20周年

ふるさとに灯す新たな明かり

今年で20周年を迎えた竜門ダムに、4月からオープンしたドラゴンキャンプ場。新たな観光資源として期待を集めるキャンプ場の誕生には、世代を超えた地域への思いがありました。

【問い合わせ先】観光振興課 ☎0968(25)7223

初めて夜市形式で開催

9月23日、「竜門ダムフェスタ・ドラゴン夜市」が竜門ダム・ドラゴンキャンプ場（芝生広場）で行われました。主催は周辺住民らでつくる斑蛇口湖活性化推進協議会。過疎化が進む龍門地域に明かりをとりたいと、ダム運用から20年の節目に合わせ企画したもので、初めて夜間に開催しました。

張を超えるテントが並びました。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となりましたが、多くの来場者でにぎわいを見せました。

「今の景色があるのは地域のために活動を続けてきた先輩たちのおかげです」。運営を担う住民グループ「竜門倶楽部」の坂本大司座長（長野）は話します。

会場になったドラゴンキャンプ場は、4月に本格運用が始まりました。新たな観光資源、そして地域活性化の拠点として、地域住民からの注目を集めています。オープンまでには、ダムを取り巻くさまざまな人たちの思いや活動がありました。



1_ 龍龍館で休憩する来場者 2_ ダムのおなか探検では普段入れない内部を特別に公開 3_ 高校生アーティスト・ニッキー・ポリバンによるステージ 4_ キャンプ場のスタッフが手作りした竹のブランコは大人気 5_ 大勢の人でにぎわう会場 6_ 激しく打ち鳴らす武蔵剣豪太鼓 7_ さまざまな催しに会場は笑顔が絶えなかった





龍門ふるさとまつり

地元の農産物の競り市や旬を迎えたシイタケの無料試食会などでにぎわう



竜門ダムフェスタ

昨年までは昼間に実施。ダム建設後から現在まで継続して開催している



桜の植樹

湖畔周辺を四季の風景で彩るため、さまざまな団体が植樹活動をしている



歩みを止めなかった20年

洪水調整施設として、また農業用水や工業用水の補給施設として、平成14年3月に完成した竜門ダム。集団移転で住民は減ったものの、地域を盛り上げようと、さまざまな取り組みが進められました。これまでの経緯と、新たに設立された「**株MOFF**」について紹介します。

地元のために立ち上がった「**株MOFF**」
住民の期待を背負った龍龍館でしたが、季節や曜日によって来客数の変動幅が大きく売り上げが伸び悩み、平成30年にはテナント事業者が撤退してしまいました。このままだと龍門地域がますます衰退してしまうと危機感を持った穴川区出身の緒方元一おがたもとかずさんは、仲間と一緒に「**株MOFF**」を設立。龍龍館のテナント事業者に手を挙げました。「定期的にお客さんが龍龍館へ来てもらわないと経営は厳しい。ここにはフラットできれいな芝生広場がある。キャンプ場を開設すれば面白いと思ったんです」。**株MOFF**のメンバーで、竜門ダムの芝生広場（エントランス広場）を管理している国土交通省菊池川河川事務所に直談判しました。令和2年1月には国や市の全面協力の下、区長や各団体の代表者からなる「竜門ダム周辺地域活性化推進協議会」を結成。地元住民と協力しながら令和2年9月に「ドラゴンキャンプ場」が仮オープンしました。

※都市・地域再生等利用区域

一般的に河川の占有は公共性の高い利用に限られますが、県や市町村の要望を受け、河川管理者が河川敷地を「都市・地域再生等利用区域」に指定することで、民間事業者がイベントやオープンカフェなどの営利活動を常時行うことが可能になります。

営業開始後は順調に売り上げを伸ばし、今年の1月には国の「都市・地域再生等利用区域（※）」に指定され本格運用に移行。4月7日には竜門ダムエントランス広場でオープニングセレモニーが行われました。当日、「多くの人のための支えでここまで来ることができました。たくさんの方に遊びに来てほしい」と語った緒方さん。そこには地元を思う若者と、これまで活動してきた地域住民たちの支えがありました。

キャンプ場、本格運用へ移行



セレモニーであいさつをする緒方さん

集団移転と各種団体の発足
県北唯一の水ガメとしての役割の他、台風や大雨発生時の水量調節、洪水防止を目的に竜門ダムは建設されました。計画区域にあった班蛇口地域の上半尺、下半尺、中山、中須の住民87世帯約400人の大半が遊蛇口区あそりぐちの代替地に集団移転。移転の対象とならなかった穴川と鳳来の2集落が残り、地域は別れた形になりました。残った地域を活性化するため、国や県、市が中心となり策定した「竜門ダム水源地域ビジョン」を受けて設立された「竜門倶楽部」の他、龍門ふるさと振興会、龍門林業研究グループなど、さまざまな団体が地元住民を中心に発足。緑化活動や桜の植樹、龍門ふるさとまつりなど、団体主催の各種イベントは今も行われています。平成10年には地元の要望を受け、ダム湖畔に市交流促進センター「龍龍館」がオープンしました。ダム湖観光と山村地域振興の拠点施設として整備したもので、龍門のシイタケやゴボウなど地域の特産品の展示販売や郷土料理レストランの営業が始まりました。

龍門こぼれ話

② 思い出のヒガンバナ

秋になると、旭志の国道325号沿いで咲き誇るヒガンバナ。これは平成3年に伊坂区の住民が「花を残したい」と移植を提案し、水没地域から“集団移転”させたものです。思い出の原風景は今も受け継がれています。

写真④水没前、実りの田を彩っていたヒガンバナ ⑤伊坂区に移植されたヒガンバナ

① 竜門ダムには公式キャラがいる→ その名も「ミュウ」。顔出しパネルもあるよ!



③ ダムの堤高(高さ)

竜門ダムの堤高は約99.5m。重力式+ロックフィルの複合ダムでは日本一の高さです。

熊本城の約2倍の高さ!



菊池川河川事務所 宇佐美 湖建設専門官

インタビュー

ドラゴンキャンプ場は全国から注目されています

ダム事業は地元の皆さんの協力がなければできません。国土交通省としても、竜門ダム完成後に地域がどうなるのか、ずっと見守ってきました。**株MOFF**を立ち上げた皆さんも素晴らしいですが、ダムを中心に20年も活動を続けてきた地域の皆さんの頑張りがあったからこそ、今の盛り上がりにつながっているの

だと思います。ダム湖畔にある「都市・地域再生等利用区域」の事例として、ドラゴンキャンプ場は全国から注目されています。竜門ダム管理支所でも夜間に周辺のライトアップをしたり、電光掲示板にイベント情報を掲載したりして、キャンプ場に協力しています。今後も龍門地域と一緒に盛り上げていきたいですね。



龍門ふるさと振興会会長
緒方啓一さん



(株)MOFF 代表
緒方元一さん



(株)MOFF 理事
松本竜一郎さん

竜門ダムに 明かりを増やしたい――

今年4月に本格オープンした、ドラゴンキャンプ場。誕生のきっかけは、地元を思い立ちあがった若者たちでした。運営する(株)MOFFのメンバーと以前から地域で活動していた緒方啓一さんに思いや展望を聞きました。



不安はなかった。何とかなる

「龍龍館のテナントが撤退した時、このままじゃこはだめになると思って、幼馴染の竜一郎と(株)MOFFを立ち上げたんだよ」。緒方元一さんは振り返ります。会社を立ち上げようと相談された時、松本竜一郎さんは「不安はなかった。何とかなるだろうと思った」と快諾。ダム運用後に急激に過疎が進む地域を見て、何とかしたいと考えていたと話します。

新たな魅力を発信

キャンプ場の本格運用後も2人は周囲を巻き込み行動します。アウトドアショップ「WOODS菊池店」(大琳寺)と共同でキャンプイベントを企画。子ども向けのアクティビティも開発して、ダム

や龍門地域の新たな魅力を発信するために駆け回っています。本当に頼もしい存在

「テナントやキャンプ場をやりたいと言いついた時は、絶対に無理だと思った」と話すのは元一さんの父・啓一さん。龍門ふるさと振興会の一員として一時、龍龍館を運営していました。「俺たちができなかったことを息子たちがやっている。頼もしいね」と目を細めます。「5月の連休には100張を超えるテントが集まった。イベントもない日にこんなに人がいたのは初めてだよ」

地元の人たちが集える場所にした

来年、水没地域の写真展や集団移転した遊蛇口区の人たちを招待

した斑蛇口湖の水上ツアーを行いたいと話す元一さんと松本さん。「キャンプ場を営業できているのは移転していった人たちのおかげです。恩返しをしたい」と力を込めます。

ふるさとの明かりは次世代へ

「過疎で家や人が減った。小学校も廃校になった。だから竜門ダムに明かりを増やしたい。それがテントの光でもイベントの光でも」。取材中、元一さんはダムの湖面を見ながら話していました。キャンプ場オープンまでには、ダム完成当初からたくさんの人たちの思いがありました。「生まれ育った場所だから、いつまでも人の集まる場所にしたくない」。ふるさとの明かりは次の世代に受け継がれています。



今年のゴールデンウィークは100張を超えるテントがキャンプ場に集合。県内外から多くの人でにぎわった



[KIKUCHI CAMP] アウトドアショップ「WOODS菊池店」と共催して行うキャンプイベント



[LAST DRAGON ULTRA] 1周約6kmのコースを1時間以内に走り、スタートから1時間後に再びスタートするレース。西日本では竜門ダムのみ開催

ドラゴンキャンプ場



菊池市龍門916
☎0968(27)0011
※受付時間 午前10時～午後5時
✉ronronkan51@gmail.com

【設備】 洗い場、トイレ、シャワー、Wi-Fi(龍龍館内のみ)、カートや遊具などの無料貸し出しあり

【予約方法】 電話またはメールで予約してください。



ホームページ



Instagram

イベント情報

KIKUCHI CAMP vol.3 11月5日(土)・6日(日)
ワークショップや抽選会など、家族で楽しめる催しが盛りだくさん。キッチンカーも集合します。詳細はホームページをご覧ください。

龍門ふるさと祭り 11月20日(日) 午前9時～
3年振りに開催するふるさと祭り。生産者が丹精込めて作った農作物や加工品を即売会として販売します。他にも出店やワークショップなど、さまざまな催しがあります。

インタビュー

龍門はいつまでも私のふるさと

遊蛇口区に移転しても、住んでいた場所はずっと気になっていました。若手が地域を引っ張ってくれて頼もしいです。

今年のダムフェスタに参加しましたが、人の多さにびっくりしました。昔の運動会を思い出しましたね。キャンプ場をすると聞いた時には驚きましたが、地域の財産に着目して、これを生かしている(株)MO



遊蛇口区長 頼本秀康さん

FFのメンバーは本当にすごいと思います。啓一さんが地域で頑張ってきたからこそ、元一くんがその背中を見て、うまくいっているのかもしれないね。

龍門はいつまでもふるさとです。移転した住民の中には住宅がダムに沈んでも本籍を集落に残したままの人もいます。今後も交流を続けていきたいですね。